

昼神温泉郷



石苔亭いしだ

オモテナシ狂言

今甦る 園原を舞台とした狂言「木賊」

復曲狂言

木賊

瀬戸内
寂聴

Jakucho Setouchi

2023年11月25日(土)

12:30 開場

13:00~15:00 公演

演目「木賊」「口真似」「千鳥」



茂山
千三郎

Senzaburo Shigeyama



■狂言「木賊」のあらすじ

～阿智村園原の木賊にまつわる恐ろしい物語とは…？～

主人に黙って仕事をさぼっていた太郎冠者が戻ったとの話を聞き、主人が太郎冠者にその理由を問い詰める。嘘が得意な太郎冠者は、信濃の善光寺参りに行っていたと嘘の話を主人に語って聞かせる。嘘の話がだんだんとエスカレートし、阿智村園原の木賊の話で盛り上がる主人と太郎冠者…。そのうち太郎冠者の嘘の話は、世にも恐ろしい木賊の物語へと発展していく。本演目は、主人と太郎冠者の主従関係が逆転する狂言の代表的な舞台構成を軸に、嘘が得意な太郎冠者と女性好きな主人との可笑しなやりとりが笑いを誘う狂言です。阿智村園原を舞台に、阿智村の神坂峠、伏屋、箒木や、信濃の善光寺など様々な地名が出てきます。太郎冠者が語る木賊にまつわる恐ろしい話は、最後まで主人をだまし通すことができるのでしょうか。

■狂言木賊 復曲の秘話

阿智村村史に「その昔、阿智村に狂言木賊があったらしい」という一文が掲載されていました。その狂言とはどんなあらすじであったのか、当時、阿智村に狂言の稽古で訪れていた狂言師の茂山千三郎氏に相談したところ、千三郎氏の父であり人間国宝の茂山千作氏（四世）によると「天正狂言本」に、あらすじが残っていることがわかりました。しかし、おおまかな内容が書かれているのみで、狂言の台本とはほど遠いものでした。そこで、茂山千三郎氏、茂山千作氏より、瀬戸内寂聴さんに狂言木賊のあらすじの書き下ろしを依頼していただきました。瀬戸内寂聴さんのあらすじを元に、茂山千三郎氏の脚本・演出によって、新たに生まれたのが復曲狂言「木賊」です。今では2007年に発足した阿智村の木賊狂言保存会にて継承されています。

茂山千三郎 SHIGEYAMA SENZABURO

大蔵流狂言師。2歳の頃より祖父（三世千作）及び父の四世千作（十二世千五郎）に師事。1984年に大曲『釣狐』、2000年『花子』、2005年『狸腹鼓』を被く。「ONATSU」では現代劇・オペラ・ミュージカル・狂言をユニットさせ好評を得る。海外公演も多数参加。京都 FM 放送局 α-STATIONでDJを長年務め、KBS 京都テレビでキャスター、レポーターを歴任。国内はもとより世界へ古典芸能“狂言”や“京都”の魅力を紹介している。重要無形文化財保持者・京都府文化奨励賞・京都市芸術新人賞・京都府文化功労章受章

善竹十郎 ZENCHIKU JYURO

昭和19年生 故・善竹圭五郎の長男 一般社団法人善竹狂言事務所 理事
故・善竹圭五郎（父）及び 故・善竹彌五郎（祖父）、大蔵流24世宗家
故大蔵彌右衛門に師事 重要無形文化財総合指定保持者
早稲田大学政経学部卒（社）能楽協会・日本能楽会会員
早稲田大学エクステンションセンター・桐朋学園芸術短大・帝京平成大学講師



S席 12,000円 **A席 10,000円** **B席 8,000円**

日時：2023年11月25日（土）

開場：12：30

時間：13：00～15：00

お話：楽しい狂言鑑賞の仕方（茂山千三郎）

演目：「木 賊」（太郎冠者：茂山千三郎／主人：逸見尚希）

演目：「口真似」（太郎冠者：茂山郁馬／主人：山内晴樹／客：中村隆）

演目：「千 鳥」（太郎冠者：茂山千三郎／主人：善竹大二郎／酒屋：善竹十郎）

附祝言

同日開催！

子供狂言（4回目）開催

日時：2023年11月25日（土）

開場：9:30（自由席）

時間：10：00～11：00

料金：中学生以下 / 無料

高校生以上 / 1,000円



長野県下伊那郡阿智村昼神温泉郷

URL: <https://www.sekitaitei.com>

E-mail: ishida@sekitaitei.com

ご予約・お問い合わせはこちら

TEL: 0265-43-3300

※ご見学・イベントにご参加の方で、お車でお越しの場合は、駐車場のご案内がございます。（無料）